

特別対談



(株)東京商工リサーチ
土持 功 東北地区本部長



日本銀行
岡山和裕 仙台支店長

いち早くニーズつかみビジネス化を支援

「デジタル化」「カーボンニュートラル」東北の強みに 後編

◇ナノテラスが新しい需要生む可能性も

一東北地方の倒産状況について、2023年度に入ってから小規模倒産を中心に件数は増加しつつあります。

今後懸念されているのはゼロゼロ融資の返済がスタートしてからどうなるかです。実施の段階から返済に関する対応が必要なのは見えていたので、借入先でも返済に向けた様々な準備をしているはずだと思います。倒産の原因が新型コロナウイルス感染症に関わるのかそうではないのかはしっかり見極める必要があります。

足元では徐々に経済活動が戻ってきていますか

ら、それに合わせて返済も組み込んでいき、バランスシートを縮小して受注を戻していけるといいですね。今のところ金融機関からみて大幅に信用コストが拡大しているような状況ではないですが、しっかり見ていかなくてはならないと思います。

一東北経済の現状をどう見えていますか。2024年度に運用開始する次世代放射光施設「NanoTerasu (ナノテラス)」の意義はどのようにお考えですか。

我々の景気判断としましては「一部に弱さがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している」と言えます。世界経済がやや減速して外需

が弱まっている一方、新型コロナウイルス感染症が5類に移行して内需が回復してきました。現状はエネルギー価格上昇を発端としてそれに応じて賃上げしていますが、賃上げを目的として価格転嫁して物価を上げていく状況になれば好循環になります。

そういった中で、新しい需要がどれくらい出てくるのか。「デジタル化」「カーボンニュートラル」は大きなテーマになります。言い換えると、デジタル化は「人間の活動をどう効率化していくか」、カーボンニュートラルは「人間の活動をどうやって自然と調和させていくか」ということです。ナノテラスの類似施設で開発した技術を使った新しい商品も既に出てきています。ナノテラスにより新しい需要が出てくるのは当然ありうることです。

―就任記者会見の時も「デジタル化」と「カーボンニュートラル」について「東北はどちらもフロントランナーである」とおっしゃっていましたね。

半導体の電子部品やデバイスが東北の製造業に大きい割合を占めていますし、今後もデジタル化は進み間違いなく需要は増えていきます。一方で



一般企業や個人レベルではデジタル化に遅れはあるようなので、さまざまな企業活動や個人活動にも浸透していけばいいと思います。例えばどんどん拡充している電子マネーのように、まずは使ってみて「危険じゃない」と分かればさらに多くの人に使っていこうという機運が広がっていきます。

カーボンニュートラルは、風力・太陽光・バイオマス・地熱など既に個別の企業で取り組みが始まっています。東北地方に従来からある農業や林業ともつながっていて、もともとやってきたことをさらに発展させていければ東北の強みになっていきます。

◇「経済」「非経済」両面で安心できる環境を

―東北地方の人口減少速度が早く未婚率が上昇しつつある中、人口安定に向け正規雇用と賃金水準の引き上げが求められています。こうした課題に対してどのようにお考えでしょうか。

東北の人口減少は他の地域よりも早く進んでいて、全国的にいずれやってくる危機が先に足元に迫っています。未婚率上昇の対策として、まずは地域の魅力を上げる必要があります。魅力を上げるためには安定した雇用や賃金など「経済」と、余暇の過ごし方やワークライフバランスの充実など「非経済」のどちらも必要になります。経済と非経済の両面で安心できることが分かってくると、安心して生活して結婚できるようになると思います。

―以前の講演で「賃金水準の高さは人を集める力がある」とおっしゃっていたのも、人口減少の対策につながってくるのでしょうか。

そうですね。賃金を上げていくためには個々の企業が生み出す商品への価格転嫁が必要ですが、「このビジネスがこの地域で確実に根付く」という意識があると企業として生き残っていけると思います。そういう意味では首都圏など別の地域に一度出て、いろんな視点を持つことも必要かもし



れません。それが新しいビジネスにつながる可能性もあります。

◇「お金とは何か」子どもに伝えたい

一仙台支店では4年ぶりに小学生向けの夏休み親子見学会を実施する予定です。こういった効果を期待していますか。

子どもの段階から「経済とは何か」「お金とは何か」と考えてほしいです。以前に本店で広報をしていた時も見学会に携わっていましたが、初めは受け身で見学に来た子ども達もお金が世の中に出る流れを学んだり、紙幣の数を教えたりすると非常に表情が生き生きとしてくるんです。

「日銀の仕事を理解してほしい」というのは二の次で、「お金は大切なんだ」「大切なお金をどう使えばいいか」と意識を持つきっかけになればいいですね。

一今後も東北地方の経済状況について定期的に情報共有していければ幸いです。本日は貴重なお話をありがとうございました。

【略歴】

岡山 和裕（おかやま・かずひろ）氏

1969年生 神戸市出身

1992年3月 東京大学法学部卒

1992年4月 日本銀行入行

2004年5月 経営企画室調査役

2004年7月 政策委員会室企画役

2007年7月 金融機構局企画役

2011年7月 総務人事局企画役

2013年6月 業務局統括課長

2015年5月 決済機構局業務継続企画課長

2016年5月 情報サービス局総務課長

2018年4月 前橋支店長

2020年9月 検査室検査役

2021年7月 業務局参事役

2023年4月 仙台支店長